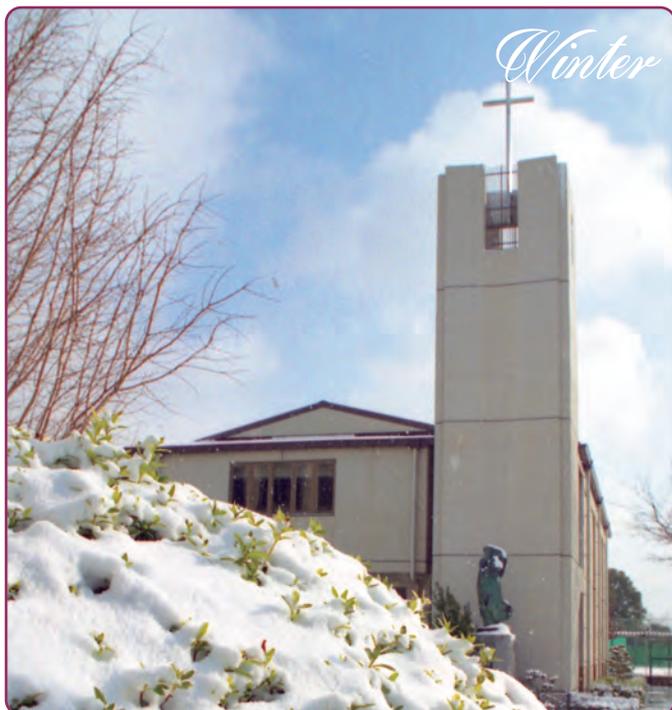
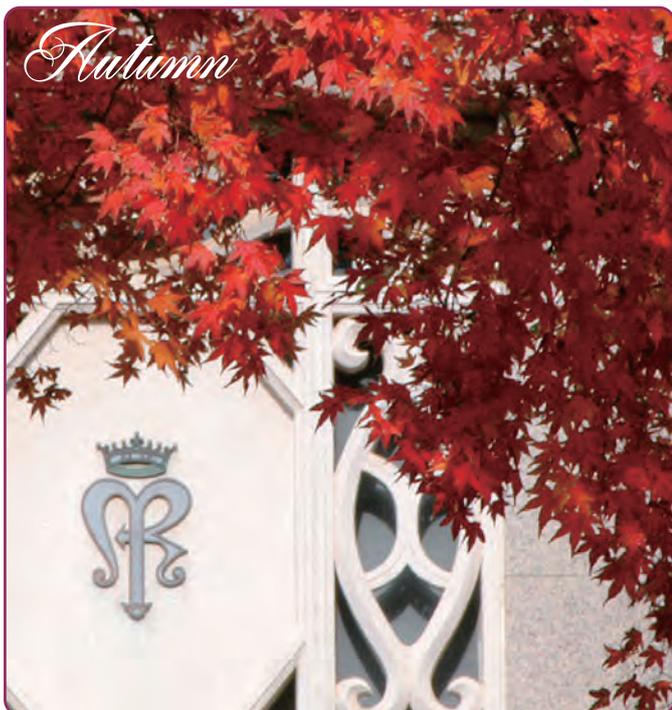
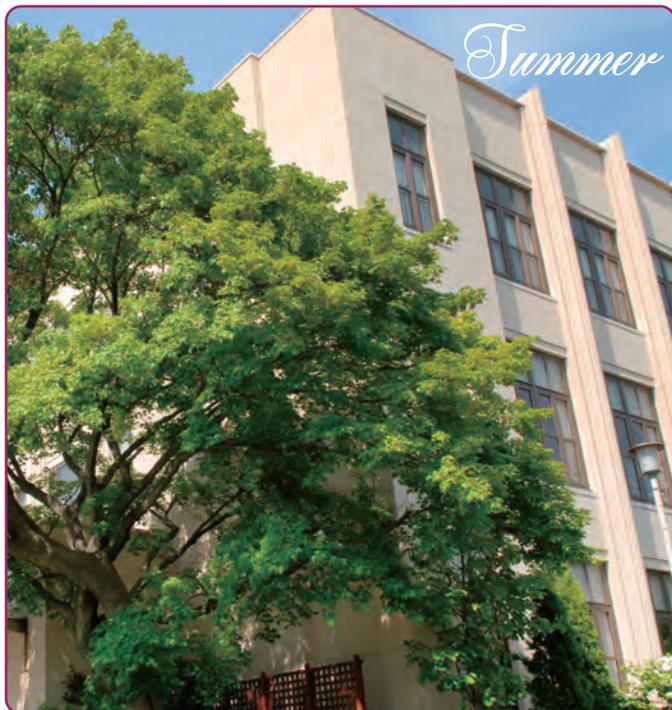
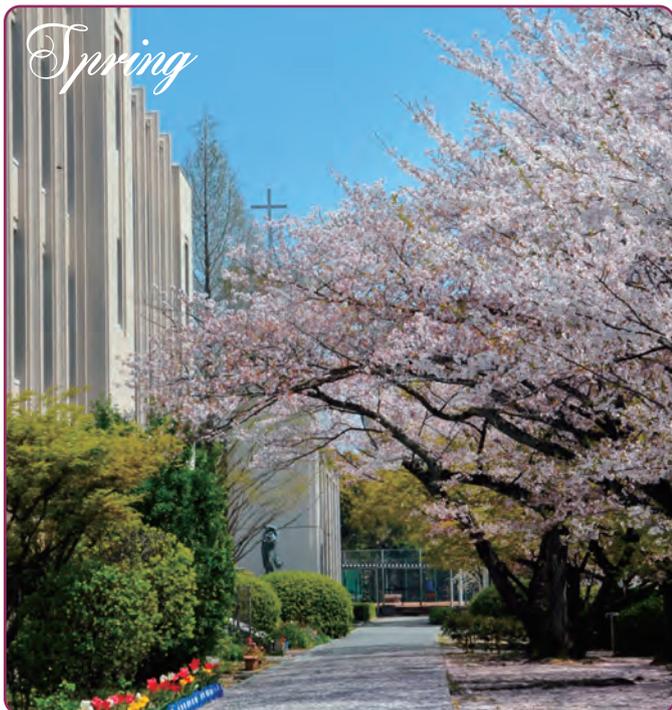


Assumption

聖母被昇天学院 学院報

Kindergarten
Primary School
Junior & Senior High School

No.22
2015.2.17





世界に貢献する女性の育成①

国際交流・外国語センター

～さらに強化される聖母被昇天学院の外国語(英語・フランス語)教育～

姉妹校とのつながりを礎とした留学・研修を多彩に展開



アメリカ語学研修

8月2日(土)～8月11日(月)

初めての語学研修として、小中高あわせて26名、引率5名で、アメリカ合衆国マサチューセッツ州のボストン、そしてボストン郊外にあるウースターのアサンプション・カレッジに10日間滞在しました。月曜から金曜までの午前中は、大学内で「若草物語」をテーマとした授業をレベル別に構成された3つのクラスに分かれて行いました。午後からはアクティビティーとして近郊の名所を訪れたり、学内の施設を利用して音楽や体育などを楽しんだりしました。研修で訪れていたアルゼンチン校の高校生たちや修道院のシスター方とも交流することが出来ました。週末にはボストン市内の観光名所やハーバード大学など有名大学にも訪問し、充実した10日間となりました。



フィリピン研修生受け入れ

4月11日(金)～4月25日(金)

今年も新年度が始まってすぐ、フィリピン研修生を迎えての国際交流がスタートしました。姉妹校のアンティポロ校とサンロレンゾ校より、ジョナ先生、ノエミ先生の引率のもと10名の高校生が箕面にやってきました。滞在期間中、ホストファミリー宅で日本の家庭生活を体験し、訪れた京都や広島では日本の歴史や文化を学びました。また、華道や茶道、そして狂言を実際に体験することにより、日本の伝統的風習を身近なものとして受け入れてもらえたのではないのでしょうか。最終日には毎年、涙でいっぱいのお別れとなりますが、研修生だけではなく、教職員・在校生の心の中に、たくさんの思い出を残してくれました。



フィリピン研修

7月27日(日)～8月8日(金)

フィリピン姉妹校との交換研修制度は、20年以上続く本校の伝統行事。今年度は高校生8名の参加となりました。ホストファミリーが4月に来日した姉妹校の生徒たちであったこと、また4月以降も彼女たちと連絡を取り合っていたことにより、最初から和やかな雰囲気での研修は始まりました。訪れた姉妹校では、大きなキャンパスや生徒数に圧倒されましたが、料理や音楽の授業を受ける中で、フィリピンの生活を実感することが出来ました。また、市内観光で名所を巡り、綺麗な民族衣装を着させてもらうなど、フィリピンの歴史や人々の生活に触れることも出来ました。滞在中の様々な経験は、研修生一人ひとりの中に大きな財産となる思いや考えを残し、今後の人生における貴重な一コマとなったことでしょう。



2014年度フランス研修



2014年度フィリピン研修



2014年度アメリカ研修

世界に広がるAssumption

学院の母胎である「聖母被昇天修道会」の本部はフランスのパリにあり、世界30ヶ国以上に姉妹校、教育団体を広げ、約5万人が同じ理念のもとに学んでいます。

ヨーロッパ

- ・フランス(本部)
- ・ベルギー
- ・デンマーク
- ・イギリス
- ・イタリア
- ・スペイン
- ・リトアニア

アメリカ

- ・アメリカ合衆国
- ・メキシコ
- ・グアテマラ
- ・エル・サルヴァドル
- ・ニカラグア
- ・キューバ
- ・エクアドル
- ・ブラジル
- ・アルゼンチン
- ・チリ

アフリカ

- ・コートジボアール
- ・ブルキナファソ
- ・ニジェール
- ・トーゴ
- ・ベナン
- ・チャド
- ・カメルーン
- ・ルワンダ
- ・タンザニア
- ・ケニア
- ・コンゴ

アジア

- ・フィリピン
- ・インド
- ・タイ
- ・ベトナム
- ・日本



フランス研修(隔年)

4月24日(木)～5月8日(木)

2006年の開始から今年で5回目となるフランス研修。今年は高校生4名が参加しました。最初の3日間は、終日パリ市内を散策し、有名な美術館や観光名所を訪れました。中でも、アサンプシヨンの歴史を学び、実感する機会に恵まれたのが、「創業者 聖マリ・ウージェニーの足跡たどりツアー」。シスターによるガイドのもと、ノートルダム寺院をはじめとする多くの教会や所縁の地を巡りました。本部修道院では世界各国のシスター方と一緒にミサに参列し、ボルドーにある姉妹校では歴史ある校舎で講義を受講。また、ホストファミリーや先生方のご協力により、いろいろなイベントに参加するなど充実した毎日を送ることが出来ました。



コリブリ交換留学生受け入れ

10月18日(土)～11月8日(土)

今年度から1対1で双方のホストファミリーを引き受けるという新しいスタイルの留学、コリブリ交換留学が本校でも始まりました。まずはフランスから2名の留学生、エステルさんとサロメさんが箕面を訪れ、高校2年生の家にホームステイをしました。本校の制服に身を包んだ2人は、3週間にわたり本校の生徒と同じ授業を受け、日常生活を送りました。ありのままの日本を体験し学ぶことが、コリブリ交換留学の目的です。フランスで日本語はもちろん数か国語を学んでいた2人は、会話に不自由することなく、さまざまな体験を積み、充実した留学生活を送れたことでしょう。「また来日する」と約束し、帰国の途につきました。2015年3月、次は本校生徒がフランスへ渡り、2人の家に3週間ホームステイをする予定です。



各校園の新しい取り組み

幼稚園

地域に貢献する施設として進化



▲完成イメージ
▲4月開園に向けて建設中

2歳児の保育スペースや給食調理室を新設

今春4月、認定こども園 聖母被昇天学院幼稚園がスタート!

2011年度からすでに実施している「子育て応援幼稚園」としての取り組みを発展充実させ、聖母被昇天学院幼稚園は、2015年度(平成27年度)から「認定こども園聖母被昇天学院幼稚園」として新しいスタートをきります。

質の高い幼児期の学校教育を行える幼稚園であり、子育て支援として「預かり保育」や、「長時間保育」など保育の総合的な提供が行えている教育施設として、大阪府・箕面市から、この度認可認定を頂くことになりました。これは、国の子育てしやすい「すくすくジャパン」という取り組みでもあります。

実施に当たり、現行の幼稚園に加えて、箕面市の委託による「2歳児の保育スペース」を、学院北側職員駐車場跡に建設し、開設します。

幼稚園での教育内容などは従来と変わりはありませんが、その保育スペースの部分に、在籍幼稚園児の給食も提供できる調理室を増設します。できたての温かい衛生面でも安全な給食の提供は、箕面市内の私立幼稚園では初めてとなりますので、食育活動の展開なども含めて大いに期待しているところでです。

小学校

子どもたちの好奇心を育てる取り組み



食育菜園

「食」を通じて学ぶ命の大切さ・感謝の心

聖母被昇天学院同窓会の支援により、小学校校舎南側に「食育菜園」を設置しました。1・2年生は生活科、3・6年生は総合的な学習の中心に「食育」分野を導入。「ハーブガーデン」

イングリッシュランゲージフェスタ
〜レシテーションコンテスト&スペリングビー〜

英語を楽しく学べる英語コンテストを開催

第一回目となる今回、幼稚園児は「レシテーション(英語暗唱)」、小学生は「スペリングビー」に挑戦します。スペリングビーとは、海外で多くの子どもたちが参加する英単語の語彙力を競う大会で、本場アメリカでは900万人が参加。一人1万

ン協会」の堺美代子先生をお招きして、担任と共に各学年に応じた学習活動を行っています。

「植える」「育てる」「収穫する」「料理する」「感謝してみんなでいただく」の5つのステップから、自然の恵みの素晴らしさを体験し、地球上の様々な命から作られた私たちの食事そのすべての命に感謝して、土台となる地球環境を守る大切さを学びます。

今年度菜園で栽培したミニトマトやキュウリ、ハーブなどは、収穫後、各学年で料理していただきました。また座学として、「生態系」などについても学びます。さらに、6年生は校外のフレンチレストランでテーブルマナーを体験しました。

1ドずつ出題される英単語のスペルを1文字ずつ正しく発声して答えます。ミスなく答え続ける緊張感と達成感が、学びの動機付けとなることでしょう。



中学校 高等学校

さらなる飛躍に向けた取り組みを充実化



▲2014年9月18日に開設した「放課後の自習室」は、初日から10名ほどが利用。18時まで利用できる図書室の自習室では時間が足りないという生徒や、クラブの練習などがあり、図書室の自習室を利用できなかった生徒が、18時以降に学校で勉強できるようになりました。

放課後20時までの自習室を開設しました

夢の実現に不可欠な
「自ら学ぶ姿勢」の確立を目指す

2学期より、クラブ活動などすべての活動が終わった18時から20時までの自習室を開設しています。勉強は「やらされる」のではなく「自ら学ぶ」習慣が確立してこそ伸びるもの。学校で先生が常駐する自習室を開設し、2時間集中して勉強する習慣をしっかりと確立することで、生徒の夢の実現をサポートしたいと、進路指導部・教務部を中心に運営しています。現在は高校生のみ利用可能ですが、生徒からは「集中して勉強できる」と好評です。



◀学校ブログでは、授業や行事、クラブ・特別宗教・生徒会の活動、国際交流といった学校生活の様子はもちろん、研修会など教員の活動も紹介しています。



▶学校ブログと同様に、生徒や教員の普段の様子、頑張っている姿を見ることができるFacebookページ。同窓生もたくさん見てくれています。

学校ブログ・Facebookページを
立ち上げました

積極的な情報発信で、独自の教育や
学校生活の魅力を広くアピール

従来からWebページで学校の様子を発信していましたが、普段の生徒の様子や学校生活を伝えるために、今年度より学校ブログ・Facebookページを立ち上げ日常的に情報発信しています。学校ブログで毎日平均400、Facebookページでは最大2000のアクセスがありました。ほぼ毎日更新しており、在校生・保護者だけでなく、同窓生や本校志願者にも多く見ていただいています。

指定校推薦の概要



▲指定校推薦は総枠450名と豊富で、高校3年生約3分の1の生徒が上智・関学・関大といった有名校に進学することが可能な人数です。これは、大学合格をゴールとするのではなく、大学でも社会でも活躍できる人材を育てことに重点を置いた学習や進路指導の結果です。

大学への指定校推薦枠がさらに充実しました

有名校の指定校推薦人数が増加
夢実現のチャンスが広がりました

指定校推薦制度は高校の成績をもとに審査を行い、入学試験を経ずに大学に入学できる推薦制度です。従来からも高校3年生の人数の7倍以上の指定校推薦がありましたが、その中でも人気校の指定校推薦人数が今年度から拡大されています。

【上智大学】
従来の1名の指定校推薦に加え、カトリック校特別推薦で2名、計3名

【関西学院大学】
従来の9名に加え、2名増加、計11名

これらに従来のからの関西大学の推薦7名を加えると、合計21名が上智・関学・関大といった有名校に進学できることとなります。もちろんこれら以外にも、聖心女子大・神戸女学院・甲南女子大・甲南大学・近畿大学・龍谷大学といった人気校の指定校推薦もあり、ますます充実しています。



卒業生Interview

本学院で過ごした日々こそが、海外での夢実現や異文化での生活、人生における揺るぎない支えに

海外生活における心の拠り所は聖書の教え



ユミ・アトフィールドさん

1. 自己紹介

ユミ・アトフィールド(旧姓五十嵐右美)と申します。幼稚園に入学、1976年短大卒。イギリスやオーストラリアの日本商社や現地企業でバイリンガル秘書を務め、現在はフリーランスの通訳・翻訳家です。(オーストラリア認定協会プロフェッショナル・レベル)

2. 聖母被昇天学院を選んだきっかけ

亡くなりました母が新聞記事を見て選んだそうです。

3. 海外で働くことになった経緯

短大卒業後イギリスに留学。ロンドンの大英図書館東洋部でアルバイトを始め、その後正規スタッフとして採用されました。オーストラリア移住後、この移民国で様々な価値観を持った人達と接し、何を基準にすればいいのかわからなくなりました。やはり学院で教わった聖書の教えが拠り所になっています。

4. 大好きな言葉

厳密には「言葉」ではありませんが、キリストが大勢の人々にその場に合った少しのパンと魚を分け、残りを集めたら、最初より多くなっ

国や時代を問わず「大切なこと」を学べたことに感謝



藤田 容子さん

1. 自己紹介

藤田容子と申します。姉の中学入学と同時に小学校4年生に編入学、1974年高校卒業。海外でバイオリンを学んだ後、バンベルグ交響楽団首席奏者に。結婚を機にスイスへ移ってからは、フリーの演奏者として主に欧米で演奏活動を続けています。

2. 聖母被昇天学院を選んだきっかけ

在籍する教会、自宅に近いカトリック校だからだと思えます。

3. 海外で働くことになった経緯

高校の時に「海外で音楽を学びたい」との思いが芽生え、卒業後はアメリカのカーチス音楽院に留学。その後ドイツのリューベック音楽大学院で学んだことが、バンベルグ交響楽団とのご縁につながりました。

4. 大好きな言葉

今、深く噛みしめているのは「自分らしい、世界に一つの花を咲かせましょう」という、創立者聖マリ・ウージェニーのお言葉です。学院では異文化の方との交わり方をこく自然に学ぶことができました。また高校時代には、留学を

心に深く刻まれた学院での学びが、人生の道しるべに



森脇 祐佳さん

1. 自己紹介

森脇祐佳(旧姓黒田祐佳)と申します。小学校4年生の時に入学、1993年高校卒業。上智大学文学部フランス文学科卒業後、「ル・コルドンブルー東京校」にてフランス料理を学びました。パリの「リッツ エスコフィエ」にて再度フランス料理を学び、フードコーディネーターに。雑誌やTV番組のフードコーディネーター、料理教室などを手掛けています。

2. 聖母被昇天学院を選んだきっかけ

母や叔母の出身校なので、自然な流れで入学しました。

3. 海外で学ぶことになった経緯

「リッツ エスコフィエ パリ」への留学を決めたのは、フランス料理を学びたかったことに加え、本学院の本部がある馴染み深い国だったこともあります。本学院では世界に目を向け考える機会が多いため、海外に出ることが特別なことではなくなるように感じます。

4. 大好きな言葉

求めよ、さらば与えられん
探せよ、さらば見つからん

1960年代



▲旧聖堂

当時の思い出



▲旧聖堂



▲授業風景

1970年代



▲クリスマス礼拝

1980年代



▲クリスマス

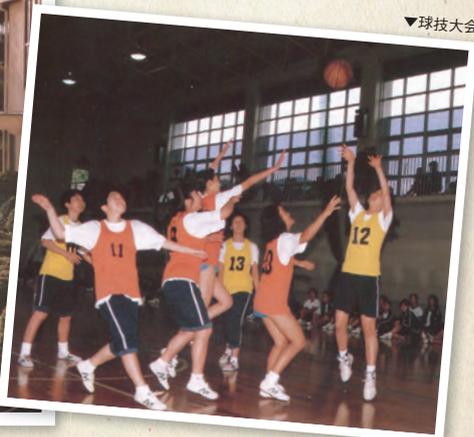


▲小学校校舎

1990年代



◀下校風景



▼球技大会

て返ってきた、というたとえ話が好きです。

5. 創立60周年に際しての思い

日本に聖母被昇天学院を設立するきっかけを作られた、設立当時の本部の方々に深く感謝いたします。人と人とのつながりは不思議な時と場所を越えていることを、今になって実感しています。聖書の教えが、現代社会でより一層輝きますように。

希望する私のために、院長先生がお昼休みの時間を割いて「フランス語会話」のお相手をしてくださいました。自分らしい花を咲かせるための環境が整っていたと感じています。

5. 創立60周年に際しての思い

どこでも、どの時代にも変わらない「大切なこと」を教えて頂いたことに感謝いたします。今まで受けてきた教えを少しでも社会に還元出来ることを心から願っております。

叩けよ、さらば開かれん

5. 創立60周年に際しての思い

「誠実」「隣人愛」「喜び」を軸に60年にわたり女子教育をされてきたことは素晴らしい、私にもその教えを授けてくださったことに感謝しております。中でも妊娠・出産などについて学ぶ「命の授業」は、いくつもの選択をしながら歩んでいくその後の人生の設計をするうえで、非常に有意義なものでした。

理事長のお話より



理事長/Sr.宮本 恵子

創立60周年を祝った箕面の聖母被昇天学院

「緑にはゆる山並みのふもとにそびえる白亜こそ」と始まる中高の校歌はまさにその当時の箕面の自然がうかがえます。その美しい緑豊かな中に聖母被昇天学院は創立されました。2014年は創立から60周年に当たる年でした。

最初に建てられたローザビルディングと呼ばれる現在の小学校の建物の中に、シスターたちの住まい(修道院)もありました。スペイン、イタリア、フィリピン、そしてフランス、ベルギーから遠い日本に、次々とシスターがやってきました。最初に入學した子どもたちにとつて、箕面の聖母被昇天学院は日本の学校でありながら日本の学校ではないような雰囲気だったと初期の卒業生の皆さんから伺っています。それから次第に生徒も増え、学年も増えて学院は成長していき、初期の頃の外国の学校のような……という雰囲気はある意味では薄れていきました。

しかし、学院の最初にあった雰囲気は保たれていると感じられる出来事がありました。11月に小

学校の学習発表会で、2年生が『おめでとう！わたしたちの学校は60さい！』と題して、創立者聖マリ・ウージェニーの生涯と、箕面の聖母被昇天学院の創立当初の頃の様子について、そして2年生自身の言葉で聖マリ・ウージェニーの言葉を受けとめて発表してくれました。2年生は小さいながら担任の先生と一緒に9月から準備してこの劇を作りあげたそうで、かわいくそして真剣な発表に心打たれる思いでした。子どもたちも先生も初めの頃の様子は知りませんが、聖マリ・ウージェニーのことを知りたい、わたしたちの学校がどのようにできたのかをみんなに伝えたいという思いで発表を準備したとのこと。このように願いの中に学院の精神は保たれ伝えられていくのではないかと思います。

今、世界ではグローバル化の波が押し寄せ、教育界でもグローバル教育を進めていく強い線が打ち出されていますが、英語が話せるようになるということだけに焦点が当てられているようなところがあります。真のグローバル

教育とは何でしょうか？ 聖母被昇天学院を築いた初期のシスターたちは、国籍や年齢、性格も異なる人々の集団で、苦勞もあつたことと思います。それでも、日本に被昇天の学校をつくりたい、子どもたちに神さまのことを伝えたいという願いによって一つにまとまっていました。本当のグローバル教育とは、自分の文化をよく知り、相手の文化を尊重することのできる人、他者と心を通わせることのできる自由さのある人、そして言葉や文化を越えて人々のために貢献できる人材を育てていくことを指すに違いありません。本学院は創立当初から英語教育に力を注いでまいりましたが、これからはさらに視点を高くして、真のグローバル人材を育てていく学院へと成長発展していきたくて考えております。

最後になりましたが、2014年10月より聖母被昇天学院の理事長に就任させていただきましたことになりました。私自身本学院で学び、その後聖母被昇天修道会に入会し、今日に至っています。この世の中の移り変わりには激

しいものがありますが、変わらぬ真理である神の教えを大切にしながら、必要な変化はとりいれて、困難な世界に向かい希望を持って歩んでいきたいと思っております。聖母被昇天学院の関係者の皆さま方には学院の教育活動へのさらなるご助力・ご協力をよろしくお願いいたします。



学校法人
聖母被昇天学院

〒562-8543 大阪府箕面市如意谷1-13-23
Tel.072-721-7680 (代)
<http://www.assumption.ed.jp>